

# 衛研ニュース

## No. 189



### ＝保健所試験検査担当職員研修会が開催されました＝

平成30年6月13日（水）～15日（金）に県内4保健所の検査担当者を対象に、県健康福祉企画課主催による保健所試験検査担当職員研修会が開催されました。微生物コースと理化学コースに分かれて行われ、当所職員が研修を指導しました。

### も く じ

- ※ 衛研「親子で見学・体験ツアー」を開催しました！
- ※ 「やまがた食の安全・安心出張セミナー」について
- ※ 支部長表彰を受賞しました（微生物部員2名）

- ..... 山田 浩貴 (2)
- ..... 内海 浩 (3)
- ..... 瀬戸 順次 (4)

### 基本方針

県民の生活と健康を支えるため、  
緊密な連携をもとに次のことを心がけます。

- 1 信頼される検査結果及び研究成果の提供
- 2 高い倫理観を持ち、知識、科学技術の修得育成
- 3 地域社会へ、わかりやすい保健情報の迅速な提供
- 4 公衆衛生向上のための医療、福祉との密なる連携
- 5 新たな創造へ、和をもって意欲的にたゆまぬ努力

### 編集発行

## 山形県衛生研究所

平成30年9月10日発行  
〒990-0031 山形市十日町一丁目6番6号  
Tel. (023) 627-1108 生活企画部  
Fax. (023) 641-7486  
URL ; <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp>

## 衛研「親子で見学・体験ツアー」を開催しました！

平成30年7月30日に衛生研究所にて衛研「親子で見学・体験ツアー」を開催しました。今回は県内の小学生7名、保護者6名に参加していただきました。

子どもたちは白衣に着替えて、ジュニア研究員に変身し、各部で用意された実験を体験しました。理化学部では、ペーパークロマトグラフィーで見えない色を探す実験をしました。微生物部では、顕微鏡を覗いて身の回りにいる菌の観察を行い、生活企画部では、蚊やボウフラなど肉眼でははっきり見えない物をマイクروسコープを用いて観察しました。

真剣に実験をする様子は、本当の研究者さながらで、中には普段はできない体験に、興奮を隠しきれない様子で実験に取り組む子もいました。

最後の閉会式では、職員手作りのジュニア研究員の認定証を受け取り、立派な研究員の仲間入りを果たしました。

「来年も来たい」、「将来は、研究員になりたい」と言う子もいるなど、職員としても大変やりがいのある親子ツアーとなりました。

参加していただいた皆さまには、今回の親子見学ツアーを通して学んだこと、感じたことを活かし、色々なことに興味を持って欲しいと思います。

(生活企画部 山田浩貴)



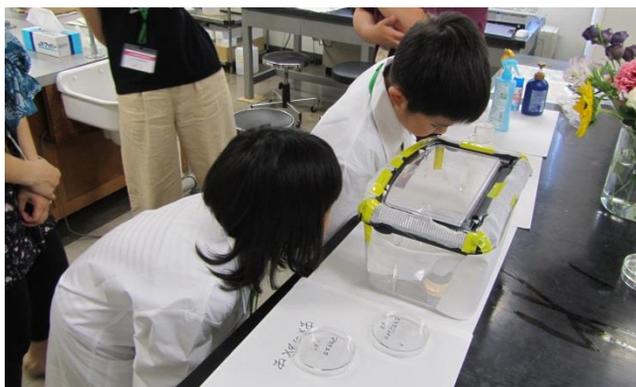
所長からの挨拶



「見えない色」を探してみよう！  
(理化学部)



身近な細菌の形を観察してみよう！  
(微生物部)



蚊や花粉など、いろいろなものを拡大して見てみよう！  
(生活企画部)

## 「やまがた食の安全・安心出張セミナー」について

「やまがた食の安全・安心出張セミナー」は、皆様からの申込みを受けて、私たち県の担当職員が直接ご訪問し、セミナーを行うものです。

平成30年6月5日に、山形市江南公民館で「やまがた食の安全・安心出張セミナー（有毒植物や毒きのこから身を守ろう）」を行いました。

江南公民館では公民館事業「江南寿大学」を実施しており、その中で健康や福祉制度など高齢者の生活に関する講座を年に3回開催しています。今回のセミナーは平成30年度第1回目の講座として行ったものです。

当日は40名ほどの「寿大学生」が参加しました。まず、食中毒全般について、内海浩研究専門員が説明し、食中毒の原因となる有毒植物や毒きのこへと話を進めていきました。食用と間違いやすい有毒植物・毒きのこの見分け方を説明した後、太田康介専門研究員から、当所で行っている調査研究業務の紹介を行いました。その後、食中毒を防ぐために知っておくべきことを説明し、セミナーを終えました。終了後、ジャガイモの毒性やイヌサフランとギョウジャニンニクの見分け方などの質問があり、実際に口にする食べ物への関心の高さを感じました。

セミナーの依頼をいただいた時は、人生の先輩方を前に分かりやすい説明ができるかどうか不安でしたが、参加された皆様の学びに関する高い意欲や、熱心な聴講姿勢に支えられ、無事にセミナーを終了することができました。



熱弁を振るう太田専門研究員と熱心に聴講する参加者

### 「やまがた食の安全・安心出張セミナー」の紹介

この事業は、食の安全・安心の確保に関する取組みについて、直接県民の皆様説明や意見交換を行うことを目的に、山形県食品安全衛生課が企画し担当各課が実施するものです。食の安全等に関する23テーマの中から関心のあるものを選んでお申込みいただくと、担当職員が直接訪問してセミナーを行います。講師の派遣・資料の作成に関する経費負担はありません。対象は、山形県内の自治会、市民団体、公益法人、企業その他団体及び地域住民が主催する食の安全・安心に関する学習会などで、参加人数がおおむね10名程度以上の集会などです。セミナーの時間は説明・意見交換を含め90分以内です。

この事業の中で、衛生研究所理化学部は次の3つのテーマについて担当しています。セミナーをご希望の方は、理化学部（TEL：023(627)1110）までご相談ください。

#### ① 県内流通農産物の安全確保に関する取り組みについて～残留農薬検査担当部署から～

県が実施している農産物の残留農薬検査について検査担当者が実際の手法などを説明します。

#### ② 有毒植物や毒きのこから身を守ろう

有毒植物や毒きのこを見分ける知識や中毒の症状、原因物質などを説明します。

#### ③ 食品の放射性物質の検査について

放射性物質をどのような方法で検査しているのか説明します。

(理化学部 内海 浩)



セミナー会場の様子

## 支部長表彰を受賞しました（微生物部員2名）

去る2018年6月28～29日、青森国際ホテルで開催された平成30年度地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部総会において、微生物部の池田辰也微生物部長および瀬戸順次主任専門研究員が支部長表彰を受賞しました。

受賞の条件は、「衛生研究所での勤務が通算10年以上かつ顕著な業績をあげた者」でした。両名とも勤務歴は10年を超え、顕著かはわかりませんが論文等で一定の業績をあげていたため賞に応募し、審査の結果、無事に受賞対象となりました。なお、業績の詳細については、当所ホームページ（<http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>）の「微生物部」→「微生物部の主な業績」からご確認ください。

総会初日は、授賞式が開催されました。受賞者ということで、胸に赤いバラの記章を付け、置き物のように指定の席に座っている時間が恥ずかしかったのですが、式は滞りなく進行し、表彰状をいただくことができました（写真1）。式の中での支部長の「本日、支部長表彰を受賞したことをうけ、今後、さらに責任感を持って業務に邁進してほしい」との講評が印象的で、今後の検査・研究業務をますます頑張らなければと思いを新たにしました。

初日の夜は情報交換会が催されましたが、ここでは青森県保健環境センターの職員のみなさまの「おもてなしの心」に感服しました。具体的には、普段飲むことができないような銘柄を含め、7種類の青森

の地酒を事前に用意してくださいました。ホテルの会場にいながら、青森県の味をグルッと旅することができたのは良い思い出です（頭も若干グルツとなりましたが）。また、情報交換会の後には、津軽三味線の生演奏が聴けるお店に連れて行っていただきました。迫力ある演奏を生で見ることができ、こちらも良い思い出となりました。青森県保健環境センターのみなさま、ありがとうございました。

2日目は受賞者の発表会が開催されました（写真2）。聴衆が各地方衛生研究所の所長中心だったため、普段の学会発表とは一味違う緊張感がありましたが、衛生研究所での自身の10年分の想いをお伝えすることができたと思っています。

今の世の中は、十年一昔の言葉さながらに、日々、劇的な進化を遂げています。その一方で、私たちが決して忘れてはいけないこともあります。それは、ヒトは周りの助けによって生きているということです。衛生研究所での私の10年も、保健所、県庁、医療機関、国立感染症研究所、他県の地方衛生研究所、大学、そして同僚のみなさまの協力なくしては成り立ちませんでした。今回の支部長表彰は、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを再認識する貴重なきっかけとなりました。そして、今度はこちらが周りを支えていける存在に成長していくこと、それが受賞者が今後目指していくべき方向性なのかもしれません。

（微生物部 瀬戸 順次）



写真1 受賞式後の記念撮影  
(左から瀬戸主任、池田部長)



写真2 受賞記念講演風景  
(池田部長)

## 衛生研究所の論文・学会発表等

### 発表論文

- 1) Fujii K, Sudaka Y., Takashino A., Kobayashi K., Kataoka C., Suzuki T., Iwata-Yoshikawa N., Kotani O., Ami Y., Shimizu H., Nagata N., Mizuta K., Matsuzaki Y., and Koike S.: VP1 amino acid residue 145 of enterovirus 71 is a key residue for its receptor attachment and resistance to neutralizing antibody during cynomolgus monkey infection. *J. Virol.* 92:e00682-18, 2018.
- 2) Matsuzaki Y., Sugawara K., Furuse Y., Shimotai Y., Hongo S., Mizuta K., and Nishimura H.: Neutralizing epitopes and residues carrying potential antigenic drift of the hemagglutinin-esterase protein of influenza C virus. *Viruses.* 10:417, 2018.

### 著書・報告・総説等

- 1) 水田克巳：私のわがまま公衆衛生学-自分のために、社会のために、そして未来のために、公衆衛生情報48(3)20-21, 2018.
- 2) 駒林賢一、水田克巳：過去の事例から学ぶ健康危機管理事例4 9麻疹の発生と終息に向けた対応、公衆衛生情報48(5)13-15, 2018.

### 学会等発表

- 1) KOIKE S., IMURA A., SUDAKA Y., TAKASHINO A., KOBAYASHI K., FUJII K., NISHIMURA H., MIZUTA K.: Establishment of EV71 vaccine efficacy test using human scavenger receptor B2 transgenic mice. *Europic 2018*, 3th to 7th June 2018. Egmond aan Zee, The Netherlands.
- 2) 水田克巳：パレコウイルス3型による流行性筋痛症・筋炎、第59回日本臨床ウイルス学会シンポジウム1、平成30年6月9日、於大宮
- 3) 水田克巳：山形県衛生研究所の活動を通じて地方衛生研究所の役割を考える、第59回日本臨床ウイルス学会ランチョンセミナー1、平成30年6月9日、於大宮
- 4) 水田克巳、田中静佳、駒林賢一、青木洋子、池田辰也、板垣勉、勝島史夫、勝島由利子、吉田宏、伊藤末志、松寄葉子：2001～2017年に山形で分離されたコクサッキーウイルスA6型の分子疫学、第72回日本細菌学会東北支部総会、2018年8月18日、於仙台